

子どもの本

研究会

【私の一冊】



『置かれた場所で咲きなさい』

渡辺和子 著 (幻冬舎)

秦 すみ子



「私の一冊」のお仕事をいただき、改めてこの本を読み返してみた。この本との出会いは、七年前である。教育現場で抱える問題や人間関係で悩んでいた時に、いつの間にか手にしていた本である。

この本は、教育現場が長い渡辺和子さんの経験に基づいた考えや心の持ち方が記されており、教育関係者だけでなく子育て世代の方や学生など幅広い世代の方にも読んでいただきたい本である。私たちは、様々な社会に属しているが、どのような困難であるかに関わらず、自分の周囲を変えようとするのではなく、また、不足を嘆くのではなく、どこに置かれても、どのようにすれば自分の花を咲かせる心を持ち続けることができるのか、それぞれの場面で心の在り方が書かれている。宗教的な考え方も多少はあるが、「置かれたところ」で自分の花を咲かせることの大切さ、それは過去にこだわるのではなく「現在」というかけがえのない時間を精一杯生きること繋がる。

現代社会では、簡単に人の命を奪ったり、あるいは自分から命を絶つニュースも後を絶たない。「置かれたところ」は、つらい立場、理不尽、不条理な仕打ちなどあげればきりがなくであろう。しかし、そのような状況下であっても我慢をして諦めるのではなく、咲けない日は、根を下へ下へとおろしていく。そして、現実が変わらないなら、悩みに対する心の持ちようを変えてみる。見方が変われば、たとえ悩みは消えなくても、勇気が芽生える、と渡辺和子さんは書いている。また、幼いころから日々の生活の中で父親や母親の後姿からたくさんさんのことを学んでいる。私は、教育現場で、保護者とお会いする機会があるが、今、「親業」ができる大人が少なくなったと感じる。私たち大人が、一つひとつの場面で子どもたちに親として、教師として教えていかなければならないのではないかと思う内容が散りばめられている。

年齢を重ねても「自分の人生をどのように生き抜くか」は究極の問題であり、自分の花を立派に咲かせるために「今」という時をていねいに生きることを教えてくれている一冊である。

(尚綱中学高等学校 校長)